

一般社団法人
ピースピースプロジェクト

活動実績 報告書

Published
in April 2022



ピースピースプロジェクトの方針

■ トップメッセージ

世界平和を創る子ども達を育てる

● オリンピック・パラリンピックのように100年後も続く活動を目指して

ピースピースプロジェクトは、私たちの小さな平和への想い(ピース:Piece)が集まって大きな平和(ピース:Peace)になる事を願い、団体名を決定しました。また、ロゴマークは、私たちのすべての活動が子ども達の笑顔につながるように、ポジティブなハートが世界に発信している姿を表現しました。

私の母は、5歳の時、広島原爆投下地点1.5キロで被爆し、父を戦争で、母を原爆で亡くしました。

私自身も、10歳の時に、交通事故により脳内出血で瀕死の重体となり、生死の境をさまよいましたが、奇跡的に生還し、その感謝の証として、社会に役立つ起業家を目指す事を決意致しました。

高校生の時、国内外の学生に平和記念公園を案内するボランティア活動に参加したことがきっかけで、広島から平和の大切さを発信したいと活動を始めました。

2009年の活動開始から、「世界一大きな折り鶴」でギネス記録達成、60万名の署名を提出し広島へのオリンピック招致活動、平和を創る教科書 漫画「キセキのヒロシマ」を日本語、英語、フランス語で出版、世界各国の教育機関や大統領、首相、大使館などへの寄贈、電子書籍にて無料配信、そして2020年より外務省後援にて「子ども世界平和サミット」を主催しています。

2025年の大阪・関西万博では、世界100か国 1億人の子ども達と共に子ども世界平和サミットを開催し、オリンピック・パラリンピックのように100年後も続く「日本発 平和を創る智慧の祭典」となることを目指しています。

活動にご賛同いただけましたら、どうかサポーターにご登録いただき、子ども達の平和学習を応援いただけましたら光栄です。子ども達の未来が愛と平和に満ち溢れた世界になりますように。



一般社団法人
ピースピースプロジェクト
代表理事

多田多延子

ピンク社長®

検索

「お逢いする人にもっと幸せになっていただきたい」と願いを込めて、365日ピンクの洋服を着続けて13年の「ピンク社長®」

■ 会社概要



私たちは、平和を創る子ども達を育て、世界平和を実現します

「ピースピースプロジェクト」という名前とロゴマークには、「ひとりひとりの小さな愛のかけら(Piece)が集まれば、大きな平和(Peace)を創り出すことができる」という意味を込めています。

商号	一般社団法人ピースピースプロジェクト (Peace Piece Project)
設立	2015年7月15日 ※2009年5月より活動、2015年7月法人化
代表者	代表理事 多田 多延子(ただ たえこ)
所在地	広島市南区出汐1-17-25
連絡先	(082)253-0693 info@peacepieceproject.com
ホームページ	https://peacepieceproject.com
認定	世界一大きい折り鶴ギネス記録保持、ピンクデー制定(日本記念日協会認定)

SDGs達成への貢献

SDGsとは「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことで、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの世界共通の目標です。ピースピースプロジェクトでは、平和を創る子ども達を育てる活動を通して、持続可能な社会の実現に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ピースピースプロジェクトのミッションとビジョン

ピースピースプロジェクトのすべての活動は、国連が推進する人間、地球及び繁栄のための行動計画「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献しています。

● ミッション ピースピースプロジェクトの存在意義、使命

世界平和の実現 ～子ども達が安心して暮らせる地球を創る～

生まれ育った環境や社会的な情勢、さまざまな事情から、「平和」に暮らすことができない子ども達があります。どのような環境に生まれ育ったとしても、その子にとっての「平和」が脅かされることがあってはなりません。未来の地球は、未来を生きる子ども達が創っていきます。子ども達が「平和」の創り方を知らない状態を放置すると、将来、国や地域社会、企業で活躍する人財に深刻な影響を与え、大きな社会的損失となります。子ども達が安心して暮らせる地球を創ることは、非常に緊急かつ重要な課題です。私たちピースピースプロジェクトは、世界平和の定義を、子ども達が安心して暮らせる地球を創ることとし、その実現のために平和を創る子ども達を育てています。

● ビジョン 世界平和実現のためにすべき目標

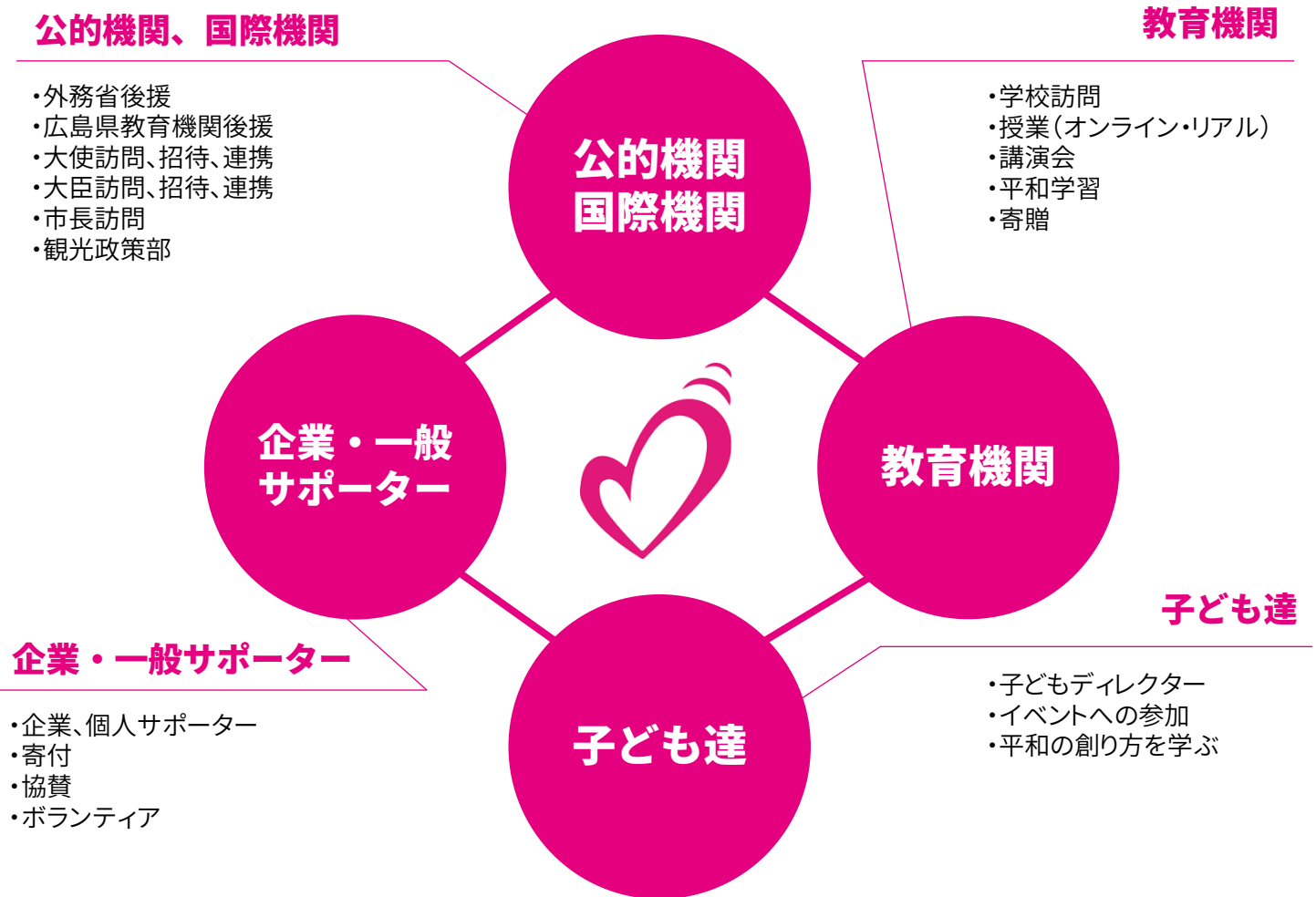
平和を創る子ども達を育てる

現状の平和学習は、「戦争」や「核兵器」の自国等の戦争の歴史を学習する機会がありますが、どうすれば「平和」を創れるのかという「平和の創り方」を学ぶ機会がほとんどありません。社会科の授業で戦争の歴史を学んだり、国語科の授業で体験小説や詩を取り扱うだけでなく、「どうやって平和を創るのか」を具体的に考える学びの場を創るため、平和学習用の本を多言語で出版し、教育現場で活用いただいたり、世界100か国1億人の子ども達との「子ども世界平和サミット」開催を目指しています。私たちは、心身ともに発達する10代の重要な時期に、多国籍の子ども達と平和について主体的に学び考える体験をすることで、子ども達が国際協力に興味を持ち、将来、国際社会で活躍する力をつけることを期待しています。

信頼性の高い機関との連携実績

これまでに、外務省後援でのイベント開催や、教育委員会・学校などの教育機関と連携して活動を行っており、世界女性起業家協会 (FCEM※1945年にフランスで発祥し、120以上の国々が加盟する協会)の世界大会でのスピーチや、オーストラリアを本部とした13カ国の支部を持つ女性経営者の団体「IWFCI」への参加など、国内外で信頼性の高い機関との連携実績がございます。

ピースピースプロジェクトのさまざまな活動への参加や支援を通じて、将来にわたり社会的価値と信頼性を高め、企業・団体・個人としての新たな価値を創造していくことができます。



100 か国 1 億人の子ども達との「子ども世界平和サミット」で世界平和実現チャレンジ！

TEAM
EXPO
2025

いどもう。みらいに。
“共創チャレンジ”

「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジとは大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するため、自らが主体となって未来に向けて行動を起こしている、または行動を起こそうとしているチームの活動の事です。



世界1億人の10代の子ども達が、子ども達の視点から「世界平和とは何か」を考え、「世界平和」を実現するためのアイデアを発表し、行動を宣誓する「子ども世界平和サミット」を通じて、世界平和を実現するチャレンジです。

■ 活動の柱

ピースピースプロジェクトは、「子ども達が安心して暮らせる地球＝世界平和」を実現するため、心身ともに発達する10代の重要な時期の子ども達と、平和について学び考える活動を推進しています。活動にご賛同いただけましたら、ピースサポーターにご登録いただき応援頂けましたら光栄です。

子ども世界平和サミット 詳細は14ページ>>>

2025年大阪・関西万博にて 世界100か国 1億人の子ども達と共に 平和を創るアイデアを発表し平和を実現する 「子ども世界平和サミット」の開催を目指す

- 世界各国の10代の子ども達によるスピーチ
「あなたが思う平和とは何か」、
「世界平和を創るアイデア」を募集
- 子ども代表が衆議院議員会館にて発表、宣誓
- すべての子ども達のアイデアをYouTube配信



平和学習の推進 詳細は10ページ>>>

オバマ大統領感動の 漫画「キセキのヒロシマ」の 国連公用語6言語での出版と 平和学習の教科書としての採用を目指す

- 漫画「キセキのヒロシマ」を活用した平和学習
- 教育機関との連携、無料貸出、
Amazon Kindle、Google booksにて無料配信、
平和学習活用、学校訪問、講師
- 国連公用語6言語での出版
(出版済み言語: 英語、フランス語、(日本語)
未出版言語: アラビア語、中国語、ロシア語、スペイン語)



講演実績、海外での活動 詳細は7ページ、20ページ>>>

活動を世界へ広げ、 平和を創る子ども達を育てる仲間を増やす

- イベントや講演会の開催や
活動報告による仲間づくり
- 国際的なサミットでのスピーチ、講演会、卓話
- 国際機関や要人の方々への活動報告
- 活動周知のためのイベント開催



■ 教育機関との連携

各市町村の教育委員会との連携や市長訪問、学校での平和学習や講演を行っております。
脳科学では、「脳は質問すると、ずっとその答えを探し続ける」と言われています。
「世界平和とは?」「世界平和を創る方法は?」子ども達の脳は、その答えを得るための情報を集め、
答えを得るための行動を起こすのです。なんとなくや、ぼんやりでも、思い描いたものが現実になります。
子ども達が、現在・将来で、自分のできる形や夢を通して、世界平和を実現してほしいと願っています。



長野県松本市清水中学校の全校生徒367名との平和授業



自分が笑顔でいたらきっとほかのみんなも
笑顔でいてくれるのかなと思って書きました

平和授業の開催や、漫画「キセキのヒロシマ」を寄贈・無料貸出した学校

啓明学園初等学校(東京)、清水中学校(長野県)、夢が丘中学校(山口)、誠意小学校(山口)、熾町小学校(広島)、
中島小学校(広島)、朝日塾小学校(岡山)、半田小学校(愛知)、阿山中学校(三重)、関東学院大学(神奈川)、
ニューヨーク日本語補習校1校、東京国際フランス学園、京都国際フランス学園 など

その他連携、寄贈・活用実績

- ・市長、教育長訪問(広島市・下関市教育長、長野県須坂市・佐久市市長)
- ・広島市経済観光局観光政策部との連携で、修学旅行生の平和学習資料として600冊寄贈、学習用PDF提供
- ・下関市のすべての小・中学校72校(下関市教育委員会との連携)
- ・長野県伊賀市、長野県須坂市、神奈川県横須賀市教育委員会を通じて各市内の小・中学校に寄贈
- ・広島市内全小・中・高校216校図書館(広島市教育委員会との連携)
- ・広島市内の図書館12館、国立国会図書館、ニューヨーク市立図書館 など他多数



啓明学園初等科6年生との授業



朝日塾小学校6年生との授業

要人、国際機関への寄贈実績、講演実績

要人への寄贈

- ・ノーベル平和賞受賞 第44代アメリカ大統領 バラク・オバマ様
- ・オバマ様妹君 ハワイ大学 平和学研究者 マヤ・カッサンドラ・ストロ様
- ・キャロライン・ケネディ元駐日米国大使
- ・国際博覧会担当大臣(2025大阪・関西万博担当大臣) 井上信治様
- ・モナコ公国プリンセス キャサリン・コロナ・デ・ステリアーノ様
- ・アラブ首長国連邦王族関係者 アリ・アル・マダニ様
- ・国連開発計画(UNDP) アルメニア駐在員ドミトリー・マリヤシン様
- ・国際女性商工連盟(IWFCI) 創始者 ダイアナ・R・アブルツィ様
- ・世界女性企業家協会(FCEM) 世界代表 マリー・クリスティーン・オグリ様
- ・フランス語圏の25か国の大使館(フランス、ジブチ、カメルーン、コートジボワール、ギニア、アルジェリア、カナダ、モロッコ、ベナン、ガボン、ブルキナファソ、レバノン、コンゴ共和国、モーリタニア、セネガル、チュニジア、ルクセンブルク、ベルギー、ルワンダ、マリの特命全権大使及び、スイス、トーゴ、マダガスカル、コンゴ民主共和国、ハイチの臨時代理大使宛)、他多数



オバマ様妹君
ハワイ大学 平和学研究者
マヤ・カッサンドラ・ストロ様



モナコ公国プリンセス
キャサリン・コロナ・デ・
ステリアーノ様



駐日フランス大使
フィリップ・セトン様

講演実績

◆企業等

パイロットインターナショナル日本ディストリクト、公益社団法人経済同友会「同友クラブ」、広島経済活性化推進倶楽部、一般財団法人お好み焼きアカデミー、広島市倫理法人会、東京中央新ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島安佐ロータリー、広島ハワイ友好提携締結20周年記念 第1回広島ハワイ次世代ビジネスリーダーズ・プログラム、L.B.A.女性企業家協会、東京都倫理法人会港区、東京都倫理法人会中央区、上野倫理法人会、KKC、マケドニア共和国「マザーテレサ記念館」主催 マザー・テレサ写真展スピーチ、フランスで1945年に設立され、ヨーロッパ諸国と5大陸120か国以上に広がり、500万人の女性経営者が加盟している世界女性企業家協会(FCEM)inロシア(モスクワ、サンクトペテルブルク)、他多数

◆教育・行政

NPO法人セブンスピリット(フィリピン)、学校法人啓明学園 啓明学園初等学校(東京都)、松本市立清水中学校(長野県)、下関市立夢が丘中学校(山口県)、下関市立誠意小学校(山口県)、学校法人朝日学園 朝日塾小学校(岡山県)、学校法人ワオ未来学園 ワオ高等学校(岡山県)、他多数



ピースピースプロジェクトの活動

■ ギネス記録 世界一大きい折り鶴 (2009～2010)

2009年8月29日～30日、広島修道大学にて、延べ800名以上のボランティアの方々と巨大折り鶴でギネスに挑戦し、30日の午後8時に完成し、ギネスに認定されました。

両翼81.94m、高さ36mの新記録(お台場で展示されているガンダム全高19.7mよりも大きなサイズ)で、2021年現在もギネス記録を保持しています。



制作で使用したのは水にぬれても平気なプラスチック素材に似た合成紙。

ロール紙をつなぎ合わせて作った100メートル×100メートルの巨大な一枚紙を、1人が約1メートル幅を持ち、人力で織り上げていきました。20工程の作業中、折り返しは1度だけという新しい折り鶴の織り方を採択しました。紙の重さは約1,000キログラム(1トン)。最後にクレーンで折り鶴を起こし、完成致しました。

屋外実施は、世界初の快挙でした。

ご参加頂いたボランティアの皆さま・サポート頂きました関係各位の皆様にご心より感謝致します。



■ オリンピック招致活動「ヒロシマ・オリンピック応援隊」(2010)

2010年2月21日に、「2020ヒロシマ・オリンピック応援隊」を結成し、広島にオリンピックを招致するための署名活動を行いました。全国からご賛同頂き、総数603,186名の署名を広島市長に提出することができました。



オリンピックは、今から百数十年前、フランス人の『ピエール・ド・クーベルタン』により、スポーツを通し心身を調和的に発達させ、“世界の平和”に貢献することを願って設立されました。

原爆から見事に復興を果たした“ヒロシマでのオリンピックの祭典”を通じ、「ヒロシマから世界に平和のメッセージを発信」することで、一人ひとりの心の中に、対立より協調への火を灯し、その火が全世界を照らす大きな松明(たいまつ)となる事を信じ、招致活動をスタートいたしました。



オバマ大統領、感動。ヒロシマ復興の漫画。

戦後、精神面・生活面で奇跡的な復興を遂げたヒロシマ。誰かを恨んだり、憎む心で停滞することなく、恕す心で前を向いて生き抜いた、強く美しい女性たちの姿を漫画化し、平和学習の教科書にしました。ヒロシマの「復興」に焦点をあて、原爆で両親を失った母を女手一つで育てながら、事業を再生し地域に貢献続けた多田の曾祖母の実話を基に、2015年に原作出版した漫画です。

2021年10月現在、日本語、英語、フランス語で出版しており、小・中学校の平和学習用の教材としてもご活用いただいております。

Amazon KindleとGoogle booksにて、電子書籍を無料配信中



左記のQRコードより、どなたでも無料でお読みいただけます。
お読み頂きましたら、5つ星レビューとシェアで応援頂けたら嬉しいです。
<https://peacepieceproject.com/peacelearning/hiroschimamiracle/>



※書籍版は、Yahooショッピングにてお求め頂くことも可能です。「漫画キセキのヒロシマ」で検索。



国連公用語6言語での出版と平和学習の教科書としての採用を目指しています

これまでに、日本語、英語、フランス語にて出版して参りましたが、世界の子ども達に読んでいただき、平和の創り方を伝えていくには、その国で使われている言語での活動が必要です。

まずは、多くの方が使う国連公用語6言語(英語、フランス語、アラビア語、中国語、ロシア語、スペイン語)にて出版致しますので、どうか法人サポーター、個人サポーターとして応援いただきますようお願い申し上げます。

教育機関向けに無料貸出も実施しております

授業でのご活用も大歓迎です。教育機関へは、書籍の無料貸出も可能です。事務局までお気軽にご相談ください。

無料の電子書籍もご自由にご活用くださいませ。PDF版のご送付も可能です。

ご感想やお写真をお送り頂けたら、今後の平和を創る子ども達を育てる活動に大切に活用させていただきます。



オバマ大統領が、漫画「キセキのヒロシマ」に感動。

2016年4月14日、オバマ大統領広島訪問実現に向けて、駐日米国大使のキャロライン・ケネディ米国大使に、英語版のキセキのヒロシマを贈呈致しました。

すると、ケネディ米国大使から、「ワシントン(オバマ大統領)にも送ります」とお礼状を賜り、2016年5月27日に、オバマ大統領の広島訪問が実現致しました。

後日、オバマ大統領から、「あなたの物語に感動しました」とお礼状を賜りました。



<オバマ大統領からのお手紙 日本語訳>

親愛なる多延子さん、私はあなたの物語に感動しました。

私は核兵器のない世界の実現への取り組みを再確認するために、広島を訪問しました。

私たちは、歴史を直視し、こうした悲劇を二度と再び繰り返さない様に、私たちが何をすべきかを自問するという共通の責任があります。

被爆者によって設定された例を通して、私たちは戦争の力ではなく、共通の人間性によって自分自身を定義することができます。

あの運命の日から、私たちは希望をもたらす選択もしてきました。

あなたの物語は、私達がどこまで来たかの証です。

より多くの人々が過去を理解し、思いやりを抱く時間があれば、より明るい、より平和な将来が待ち受けていると確信しています。

あなたの物語を私と共有してくれてありがとう。あなたの人生に幸あれ。

バラク・オバマ



AMBASSADOR OF
THE UNITED STATES OF AMERICA
TOKYO

April 21, 2016

Ms. Taeko Tada
Representative
Peace Piece Project
1-17-25 Deshio, Minami-ku,
Hiroshima-shi, Hiroshima 734-0001

Dear Ms. Tada:

Thank you so much for sending two copies of *The Hiroshima Miracle – Hiroshima is in the Pink*. I look forward to sharing them with my Embassy colleagues and guests. We will also send a copy to Washington. I appreciate your thoughtfulness.

The foundation of the U.S. Government's non-proliferation efforts is the clear understanding and recognition of the human consequences of the use of nuclear weapons. I was deeply moved by my visits to Hiroshima and Nagasaki and hope that these visits help to advance President Obama's goal of realizing a world without nuclear weapons.

Sincerely,

Caroline Kennedy

THE WHITE HOUSE
WASHINGTON

November 3, 2016

Ms. Taeko Tada
Hiroshima, Japan

Dear Taeko:

Thank you for writing to Ambassador Kennedy. I am moved by your story.

I visited Hiroshima to reaffirm my commitment to working toward a world without nuclear weapons. We have a shared responsibility to look directly into the eye of history and ask what we must do differently to prevent such suffering from ever happening again. It is through the examples set by the hibakusha that we are able to define ourselves not by our capacity for war, but by our common humanity. Since that fateful day, we have made choices that give us hope, and stories like yours are a testament to how far we have come. So long as more people take the time to understand the past and embrace compassion, I am confident a brighter, more peaceful future lies ahead.

Thank you, again, for sharing your story with me. I wish you all the best.

Sincerely,

キャロライン・ケネディ駐日米国大使からのお礼状

オバマ大統領からのお礼状

小学5～6年生の子ども達からのご感想

戦争を知らない子ども達が、本を読みながら、自分なりに思いを巡らせ、素直な気持ちを綴ってくれました。ほんの一部ではございますが、抜粋してご紹介致します。このストーリーを、多くの言語で翻訳・出版し、世界の子ども達に平和の創り方を伝えて参りたいと思っています。

キセキのヒロシマ読みました！

「こんなところが良かったよ！」
「平和のために、こんなことを始めてみようかな？」
思ったこと、考えたことを、本の原作者に伝えてみよう！

広島に原爆を落したアメリカ人を私も最悪だとも思いました。でも年長のときの修学旅行で原爆の話を聞いたことがあり、それ以来、この本を読んだら、原爆、戦争が怖いのがわかりました。もしもそんな人を殺すという行為は許さず、それ以外、幸せな人生を送るという大切さの大切さ、一番人を殺すという行為が怖い。私も一番心に残ったのは、おばあさんのひいおばあさんが、この本を読んだ時、時間を進んでいくばかりで、自分を待ってはくれない。恨みや憎しみという感情は捨て、幸せになるために生き延びるために行動しなさい。これが前向きに人生を送るための秘けつかな？と思いましたが、私のひいおばあさんは広島に大空襲を受けました。戦争が怖い。自分でも飯を食べるまでは、食前、長い時間手を合わせ深々と礼をし、食後も食前と同じようにしていました。毎日毎日それを続け、いろいろなことに感謝していました。その姿がたえ子さんのひいおばあちゃんと重なり、とても印象に残りました。



私が一番心に残ったのは、たえ子さんのひいおばあちゃんがよく言っていた言葉です。

時間は進んでいくばかりで、自分を待ってはくれない。恨みや憎しみという感情は捨て、幸せになるために生き延びるために行動しなさい。これが前向きに人生を送るための秘けつかなと思いました。

私のひいおばあちゃんも、戦争にあった一人です。ひいおばあちゃんは今年亡くなりましたが、自分でご飯を食べれるまでは、食前に、長い時間手を合わせ深々と礼をし、食後も食前と同じようにしていました。毎日毎日それを続け、いろいろなことに感謝していました。その姿がたえ子さんのひいおばあちゃんと重なり、とても印象に残りました。

ひいおばあちゃんのように感謝を忘れずに毎日笑顔で過ごしていこうと思います。

キセキのヒロシマ読みました！

「こんなところが良かったよ！」
「平和のために、こんなことを始めてみようかな？」
思ったこと、考えたことを、本の原作者に伝えてみよう！

この本を読んで原爆に近況変わった広島についてよくわかりました。原爆資料館では原爆の熱線やけとを被った人たちの爆風で飛んできたガラスがささった服など、原爆が起こした悲惨さしか説明されておらず、資料館に行っても暗いイメージしか残りませんでした。しかしこの本を読むと、広島の人たちがどのようにして今の明るい広島をつくったかが書いてあり、とても夢中になりました。この本の中で、2月3日の原爆の悲劇に立ち向かい、助け合っている広島の人たちは強いな、すごいな、と心を動かされました。2巻の23ページから24ページまでの原爆の悲劇に立ち向かい、助け合っている広島の人たちは強いな、すごいな、と心を動かされました。この考えが世界を平和にするのだからと感じました。この本のおかげで原爆のイメージが大きく変わりました。そして、今までの原爆の悲劇にも負けずに明るい未来を築いていこうと決意しました。これが世界全体が平和になるための秘けつかな？と思えました。



原爆資料館では、原爆の熱線でやけどを負った人たちや、爆風で飛んできたガラスがささった服など、原爆が起こした悲惨さしか説明されておらず、資料館に行っても暗いイメージしか残りませんでした。しかし、この本を読むと、広島の人たちがどのようにして今の明るい広島をつくったかが書いてあり、とても夢中になりました。

その中でも、2～3日で原爆の悲劇に立ち向かい、助け合っている広島の人たちは強いな、すごいな、と心を動かされました。

「戦争は憎んでも人や国を恨んではいけません」という言葉がとても心に響きました。この考えが世界を平和にするのだからと感じました。これから世界全体が平和であるために、怒す心を大切にしようと思いました。

私は、タエコが7歳の時にひいおばあさんの世に、平和とは何かを聞いて、平和はタエコさんとひいおばあさんが、綺麗なお花を育てるから、綺麗なお花を育てる時間……。それが平和だと言っている場面が、すごく好きです。そう考えると、今は、戦争の時に比べて、とても平和です。でも、戦争がない今でも、差別があります。いろいろな国で、戦争が起きている人がたくさんいます。この本を読んで、とてもいいことがあって、前向きな気持ちを持って、何事にも打ち勝っていくという自信や勇気などのアドバイスのようなものを教えてくださいました。この本を読めてとても良かったです。

今は、戦争の時に比べてとても平和です。でも、戦争がない今でも、差別があったり、いろいろなないじめが世界中であって苦しんでいる人たちがいます。この本は、どんなつらいことや悲しいことがあっても、前向きな気持ちをもって何事にも打ち勝っていくという自信や勇気などのアドバイスのようなものを教えてくださいました。この本を読めてとても良かったです。

キセキのヒロシマを読まれた子ども達が描いてくださったポスター



長野県松本市清水中学校の全校生徒367名との平和授業

2020年10月20日(火)、長野県松本市にある清水中学校の全校生徒367名と平和授業をさせていただきました。子ども達に、「突然、世界平和を実現するにはどうしたらいいの?と考えると難しいけれど、「サッカー選手になる」「お笑い芸人になって皆を笑わせる」など、子ども達が想像できる形、自分のできる形で、夢を通して世界平和を創ったり、社会貢献をしていくイメージをつかみ、世界に目を向けることをこの平和授業の目的とし、同時に、生きること、生かされていることの大切さにも気付いてほしいと願い授業させていただきました。生徒の皆様のご感想を一部ご紹介致します。

私は何かやる前に「自分じゃ無理かな…」と毎回思ってしまう、なかなか実行することができないけど、できる・できないの前に「できる」と信じてやるのが大切ということが分かりました。また、人生でひとりくらい誰かを幸せにできたらいいなと思いました。

「平和」についてや、今の私たちにできることについてなど様々なことを考えさせられる講演会でした。私たちは当たり前のように生活していますが、その一つ一つがもう平和を表しているのではないかなと思いました。みんなが幸せになれるように、世界中で助け合いの輪が広がっていくことを願います。

多田さんのお話を聞いて、平和とは何かを改めて考えることができました。平和を思う1人1人の小さな想いが集まることで、日本や世界を平和にする大きなものになるのだと分かり、とても素敵なことだと感じました。「できるかな」ではなく、「やってみよう」とすることが夢を叶えるための第一歩になるのだと胸に響きました。清水中での活動の輪が広がっていくのはとても素晴らしいことだと思うし、企画した彩香さんやたくさんの準備をしてきてくれた総務会の皆さんに感謝したいと思います。

「平和」は普段あまり考えないことかもしれませんが、今日の講演のことを家族に話して、まずは身近な人を笑顔にさせていきたいです。そのために、自分も幸せでいようと思いました。



世界平和実現の方法を、世界各国の10代の子ども達と一緒に考える。

子ども世界平和サミットでは、心身ともに発達する10代の重要な時期に、多国籍の子ども達と平和について学び考える体験を通し、国際協力への関心を高め、国際社会で世界平和実現のために活躍する力を育てております。



第2回 子ども世界平和サミット実施概要

開催日時：2021年8月10日(火)14時00分～16時50分

会場：衆議院第一議員会館 国際会議室、多目的室

主催：一般社団法人ピースピースプロジェクト

後援：外務省、広島県教育委員会

協賛：ユームテクノロジージャパン株式会社、株式会社ビジョン、パナソニック株式会社、株式会社ティーエスピー、株式会社レアジョブ、株式会社クリーク・アンド・リバー社

公式HP：<https://peacepieceproject.com/cwps/>

審査員長：宇宙飛行士 山崎直子氏

審査員：アルピニスト(登山家)野口健氏 ※ビデオ参加、アテネオリンピック銀メダリスト 長塚智広氏、日本放送協会エグゼクティブ・ディレクター 片岡利文氏、元外務省・作家 神田昌典氏



第2回 子ども世界平和サミット当日の様子を動画や写真にてご覧いただけます

<https://peacepieceproject.com/cwps2021report>



子ども世界平和サミットは、2025年大阪・関西万博のTEAM EXPOの共創チャレンジにも正式登録しており、世界100カ国1億人の子ども達と子ども世界平和サミットを開催し、世界平和実現を目指しております。サポーター登録、ご協賛など、どうか、継続的にご支援頂きますようお願い申し上げます。

Most Peaceful賞:3名



崎浜 空音 (18歳・日本)

世界中の国で協力し、ひとつの歴史教科書を作ることで、ゆがふを実現させる
 「ゆがふ」とは沖縄の言葉で「世の中が平和で幸せで溢れていること」を意味します。
 私の提案する世界を平和にするアイデアは「世界中の国で協力し、
 1つの歴史教科書を作る」という事です。



久松 仁美 (16歳・日本)

すべての人が平等な教育を受けられるように教育プラットフォームをつくる
 私の考える平和とは一人一人が平等に教育の機会を得る事です。
 これを実現するために必要なことは、デバイスがある限りだれでもアクセスできる
 教育プラットフォームの設置だと思えます。どんな環境にいる子どもたちでも、
 平等に教育を受けられることになりたい自分になれる社会になるといいなと思えます。



東條 ほのあ (11歳・日本)

国旗刺しゅうリレーでみんな仲良く

言葉がわからなくてもコミュニケーションをとって、子どもたちがいろんな国の国旗を
 ししゅうしていったら、みんなが仲良くなって平和につながると思えます。みんなが1から
 作ったひとつの大きな作品が完成したら嬉しい気持ちになって、仲良くなると思えます。

Peaceful賞:12名

- アリサ ミキ カナシロナガオ (16歳・ブラジル) 他人への尊敬と思いやりを忘れずに
- マリア セシリア イシタニ クリストーフォロ (12歳・ブラジル) 平和、寛容、多様性
- マテウス リュウヒガ (11歳・ブラジル) 常に思いやりの心を持つこと
- コーシア フェリシティ (13歳・イングランド) フェアトレード運動で公平で公正な世界を実現
- 佐藤 建太郎 (11歳・ドイツ/日本) 実際に会って、寝食を共にして課題に取り組む
- 小井手 嬉世 (12歳・日本) 相談できる場所や託児所をつくって、虐待をなくす
- 増田 匡佑 (11歳・日本) 動物や環境ごと世界平和にするため絶滅危惧種の保護や植林をする
- 塩野 怜玲 (17歳・日本) 子ども達の笑顔で世界を平和で幸せに
- 内海 怜子 (17歳・日本) 「わ」という平和の3つの礎
- 住吉 拓己 (12歳・日本) こども国際連合をつくろう!
- 鎌倉 空來 (13歳・日本) 1億人1円大会を世界各地で開催する
- バレンシア ポチャベリ (13歳・ケニア) 誰もが差別されない、安心して暮らせる環境を創る

募集要項	応募時点で10～18歳が対象。 応募テーマ「平和ってなに?わたしが考える世界を平和にするアイデア」に沿って 作文またはスピーチ動画を作成しインターネットまたはメール(学校・団体)にて直接応募する。 ●作文応募の場合(英語または日本語でワープロソフトで作成) 日本語の場合 300～800字、英語の場合 250～600 wordsを提出 ●動画応募の場合(動画内の言語は自由) 1分以上3分以内のスピーチ動画と、スピーチ内容を英語または日本語でまとめた文章を Wordなどのワープロソフトで作成したものを提出
募集方法	ウェブサイト、新聞広告、チラシ配布、講演会等
募集期間	2021年4月30日～6月14日
応募人数	202名
参加国数	11ヶ国(日本、ブラジル、イングランド、ケニア、インドネシア、コンゴ民主共和国、ドイツ、フィリピン、イギリス、ネパール、アメリカ)

来賓紹介

- 自由民主党政調会長/元文部科学大臣 下村博文氏
- 国際博覧会担当大臣、内閣府特命担当大臣 井上信治氏(ビデオメッセージ)
- 内閣官房国際博覧会推進本部事務局 次長 高科淳氏

各国大使等

- フランス大使館 特命全権大使 フィリップ・セトン閣下
- チュニジア共和国大使館 特命全権大使 モハメッド・エルーミ閣下
- タンザニア連合共和国大使館 臨時代理大使 ジョン・フィッシャー・カンボーナ全権公使
- 在東京ブラジル連邦共和国総領事館 総領事 ジョアン・デ・メンドンサ・リマ・ネト氏
- コンゴ民主共和国 建築家 ルクムウェナ・ンセンダ氏 他多数



協賛企業大募集

一緒に、平和を創るSDGsネイティブの子ども達を育てて参りませんか？

子ども世界平和サミットは、2025年大阪・関西万博のTEAM EXPO2025プログラムの共創チャレンジに正式登録しており、世界100か国1億人の子ども達と共に平和を創るアイデアを発表し、世界平和を実現する「子ども世界平和サミット」の開催を目指しております。是非、ご協賛いただき、一緒に平和を創る子ども達を育てて参れましたら光栄です。

【協賛お問い合わせ先】子ども世界平和サミット事務局 info@peacepieceproject.com までご連絡ください。

国際的・地球規模の共通課題への取り組み

子ども世界平和サミットは、国連が推進する
人間、地球及び繁栄のための行動計画「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献します。

SDGsとは「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことで、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標です。

「地球上の誰一人として取り残さない」という誓いのもと、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、「貧困」「健康と福祉」「教育」「働きがい」「気候変動」など17の目標と169のターゲットで構成されています。ピースピースプロジェクトでは「子ども世界平和サミット」を通じて、特に、下記の開発目標に貢献して参ります。

■ 持続可能な開発のための教育～質の高い教育をみんなに



<4.7> 2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする。

現地でその国の人との交流、食事、街並みを見ることで、悩みや問題点が肌で感じられる、簡単に言うと喜怒哀楽が分かります。僕は毎年ロボット競技に参加しているので、将来的には世界の人とチームを作って、実際に会って、寝食を共にして、理解し合い、課題に取り組みたいです。



■ 国と国の間にある不平等や国の中での不平等を減らす



<10.2> 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々のエンパワーメント、および社会的、経済的、および政治的な包含を促進する。

発展途上国において、貿易に関わる関係者や生産者が、労働や生産に適した公平な報酬を得られるようにする「フェアトレード」により、農家の方々や生産者の子供達が学校に通うことができるようになります。そして、貧困の原因にもなる争いを減らすことにもつながります。



■ 平和で公正な社会をつくる～暴力や暴力による死をなくす



<16.1> あらゆる場所において、すべての形態の暴力および暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。
<16.7> あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型、および代表的な意思決定を確保する。

子供に詳しい保育園・幼稚園の先生に相談する場をもっと増やしたり、生まれて1ヶ月から年長さんまでの子供をいつでも24時間預かってくれる場所も作った方がいいと思います。そうすることによって親もゆっくり休めるし、子供も友達を作る経験ができるからです。



上記以外にも、
子ども世界平和サミットに参加する子ども達のアイデアにより、すべてのSDGsの達成に貢献

日本テレビ「マツコ会議」、TBSテレビ「その他の人に会ってみた」、テレビ朝日「ノブナカなんなん」、共同通信、ジャパントゥームス、中国新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、伊勢新聞、産経新聞、産経子どもニュース、月刊ウェンディ広島、経済レポート、NHKラジオ第1、RCCラジオ、FMIはつかいち、月刊経営誌「理念と経営」、子どもの心を育てる良書目録(広島市こども図書館発行)、チャレンジ5年生「未来発見ブック」(ベネッセコーポレーション発行) 他多数

13版S 2020年(令和2年)6月30日(水) 毎月 白 発行 隔週

カンナの花 結んだ平和の願い



「キセキのヒロシマ」原作者、須坂市に漫画本

被爆地広島を舞台に、戦時中から戦後までを描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。多田さんは、須坂市に生まれ、須坂市立第一中学校を卒業後、東京で漫画家として活躍した。『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

活動団体に協力の縁で

多田さんは、須坂市に生まれ、須坂市立第一中学校を卒業後、東京で漫画家として活躍した。『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

隔週 2019年(令和元年)10月30日(水) 13版S 頁1 広島 24

曾祖母モデル 被爆後の復興を描いた漫画



「キセキのヒロシマ」仏語で

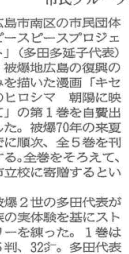
『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

原作者・多田さん 出版目指しCFで支援募る

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

2014年(平成26年)7月9日(水曜日) 中四 隔週 発行 隔週

漫画で描くヒロシマ復興



市民グループが第1巻出版

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。



女性たちの「あの日」伝えたい

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

マツコ会議 会員数1000人以上!女社長の集いに潜入



世の中を変えた人は どんなん事したのが勉強

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

その他な方法で1億円以上稼ぐ! 年商100億円ピンク社長の次なる野望は?

宇宙で子どもたちと 平和サミットをしたい

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

2017年(平成29年)11月6日(月)

「秋晴れの中小企業をたぐって」

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

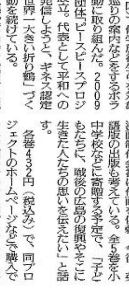
ピンクの社長に届いた手紙



『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

2014年(平成26年)7月14日(月曜日) 広島 隔週 発行 隔週

曾祖母の向き人生 5巻に



被爆地の復興を描いた漫画出版

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

多田多延子さん 45 (南区)

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

令和2年(2020年)8月22日 須坂 新聞

広島復興の原動力は女性たち



多田さんから読者にメッセージ

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。

『キセキのヒロシマ』は、戦時中の広島を舞台に、ヒロシマの悲劇を描いた漫画。戦時中のヒロシマに、多田さんが描いた漫画『キセキのヒロシマ』の原作者、多田多延子さんが、広島県須坂市に漫画本を寄贈した。


KYODO NEWS
 Japan's Leading News Network
 Site Archive Articles Photos
 Search
 May 31, 2016 10:14

Home All headlines Photos RSS
 Obama's historic visit to Hiroshima South China Sea United Nations (Fully Accessible) Japan-China N
 Opinion Pieces (Fully Accessible) Video Advisory

Politics Economy / Business Society Sports Asia Entertainment Travel / City Life

CATEGORY Focus / Feature
 PAGE BACK
 Read It Later Mail Share Print
 Not a subscriber? See options available. >

18:08 28 May 2016
FEATURE: Women's resilience takes the stage in manga of A-bomb survivor's kin
 By May Masangkay
 HIROSHIMA, May 28, Kyodo



The horrors of the world's first atomic bombing in Hiroshima are often captured in black and white photos of the devastated western Japan city and images of survivors' scars.

But Taeko Tada, whose mother survived the U.S. atomic bombing on Aug. 6, 1945, at the age of 5, has a different take on the tragedy, as her self-published manga focuses on the happier faces of women who let go of their pain, decided to forgive and helped rebuild the city.

In her book entitled "The Hiroshima Miracle: Hiroshima Is in the Pink!" Tada, 47, uses the color pink on its cover and title to reflect her desire to depict the atomic-bomb survivors' tales as one that brings hope and joy to people. Pink is her favorite color which represents joy.

To have fuller access to the Kyodo News website, it is necessary to subscribe. We offer a broad range of subscription options depending on your needs. Learn more.

Manga shows Hiroshima survival as one of joy
 BY MAY MASANGKAY
 KYODO

HIROSHIMA - The horror in post-bombing Hiroshima is captured in black-and-white photos of the city and its beleaguered survivors.

But Taeko Tada, whose mother survived the U.S. atomic bombing at the age of 5, has a different take on the tragedy. Her self-published manga focuses on the happier faces of women who let go of their pain, decided to forgive and helped to rebuild the city.

"The Hiroshima Miracle: Hiroshima is in the Pink!" uses the color pink on its cover to depict the hibakusha experience as one of hope and joy.

"I wanted people to know more of the brighter side of Hiroshima, that this city is in the pink and filled with happiness as a result of efforts by women like my great-grandmother to rebuild the city after the atomic bomb," said Tada, 47, a representative of the Hiroshima-based Peace Piece Project.

"Hiroshima is not just an atomic-bombed city with a sad history but also with a story of rising above the tragedy. I wanted to retell the stories of women who struggled and played key roles in reconstruction efforts and how women forgive and helped each other."

Tada's great-grandmother lost her daughter-in-law at age 56 due to the effects of the atomic bomb and raised Tada's mother alone.

Tada released the manga in Japanese in five booklets last year, to mark 70 years since the end of World War II. It was printed in English in March and will be available on iBooks.

The book was sent to American Ambassador Caroline Kennedy, who in April wrote a letter of thanks. Kennedy said a copy will be sent to Washington.

In her letter, Kennedy said she was "deeply moved" by her visits to Hiroshima and Nagasaki, and said she hopes the visits will "help to advance President [Barack] Obama's goal of realizing a world without nuclear weapons."

Tada said she was "very touched" by Obama's speech during his historic visit Friday to Hiroshima as the first sitting U.S. president to do so, especially since he mentioned a story about forgiveness, a theme that reverberates in her manga.

In his address, Obama spoke of a woman who forgave the pilot who flew the plane that dropped the bomb "because she recognized what she really hated was war itself."

Tada's 172-page book features her great-grandmother's ordeal in the aftermath of the bombing. Tada said she was very young when her great-grandmother died but vividly recalls her inspiring words about how it is better to forgive than to be stuck in the past.

The manga also features the story of a mother who cheered on a struggling baseball team in Hiroshima in honor of her son and a woman who was known as one of the "Hiroshima Maidens" invited to the United States for reconstructive surgery.

Recounting her experience in high school, Tada said she was shocked when, as a volunteer guide for foreign visitors, she was asked if the people in Hiroshima still hated Americans.

"[The] atomic bombing is a serious subject and sometimes discourages people to come here. People feel heavy after touring through the Peace Memorial Park and other atomic bomb-related sites," she said.

She said her manga received positive feedback from atomic bomb survivors, who thanked her for sharing sentiments they could not quite articulate.

"We cannot live in the past. We cannot change what happened," Tada said. Her message is to live toward the future: "This is the Hiroshima I want people to know."

ALL THE NEWS WITHOUT FEAR OR FAVOR
The Japan Times
 INCORPORATING
International New York Times
 Friday, June 3, 2016

Manga seeks to counter gloomy stereotypes Hiroshima survival one of joy, artist says

May Masangkay
Hiroshima
 KYODO

The horror in post-bombing Hiroshima is captured in black-and-white photos of the city and its beleaguered survivors.

But Taeko Tada, whose mother survived the U.S. atomic bombing at the age of 5, has a different take on the tragedy. Her self-published manga focuses on the happier faces of women who let go of their pain, decided to forgive and helped to rebuild the city.

"The Hiroshima Miracle: Hiroshima is in the Pink!" uses the color pink on its cover to depict the hibakusha experience as one of hope and joy.

"I wanted people to know more of the brighter side of Hiroshima, that this city is in the pink and filled with happiness as a result of efforts by women like my great-grandmother to rebuild the city after the atomic bomb," said Tada, 47, a representative of the Hiroshima-based Peace Piece Project.

"Hiroshima is not just an atomic-bombed city with a sad history but also with a story of rising above the tragedy. I wanted to retell the stories of women who struggled and played key roles in reconstruction efforts and how women forgive and helped each other."

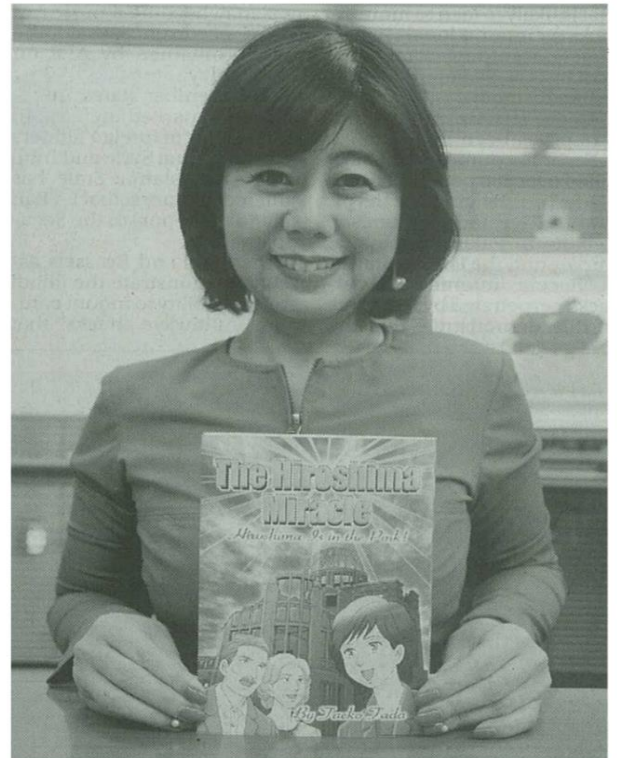
Tada's great-grandmother lost her daughter-in-law at age 56 due to the effects of the atomic bomb and raised Tada's mother alone.

Tada released the manga in Japanese in five booklets last year, to mark 70 years since the end of World War II. It was printed in English in March and will be available on iBooks.

The book was sent to American Ambassador Caroline Kennedy, who in April wrote a letter of thanks. Kennedy said a copy will be sent to Washington.

In her letter, Kennedy said she was "deeply moved" by her visits to Hiroshima and Nagasaki, and said she hopes the visits will "help to advance President [Barack] Obama's goal of realizing a world without nuclear weapons."

Tada said she was "very



Taeko Tada holds a copy of the manga she wrote about women who survived the atomic bombing, seen on May 25. KYODO

touched" by Obama's speech during his historic visit Friday to Hiroshima as the first sitting U.S. president to do so, especially since he mentioned a story about forgiveness, a theme that reverberates in her manga.

In his address, Obama spoke of a woman who forgave the pilot who flew the plane that dropped the bomb "because she recognized what she really hated was war itself."

Tada's 172-page book features her great-grandmother's ordeal in the aftermath of the bombing. Tada said she was very young when her great-grandmother died but vividly recalls her inspiring words about how it is better to forgive than to be stuck in the past.

The manga also features the story of a mother who cheered on a struggling baseball team in Hiroshima in honor of her son and a woman who was known

as one of the "Hiroshima Maidens" invited to the United States for reconstructive surgery.

Recounting her experience in high school, Tada said she was shocked when, as a volunteer guide for foreign visitors, she was asked if the people in Hiroshima still hated Americans.

"(The) atomic bombing is a serious subject and sometimes discourages people to come here. People feel heavy after touring through the Peace Memorial Park and other atomic bomb-related sites," she said.

She said her manga received positive feedback from atomic bomb survivors, who thanked her for sharing sentiments they could not quite articulate.

"We cannot live in the past. We cannot change what happened," Tada said. Her message is to live toward the future: "This is the Hiroshima I want people to know."

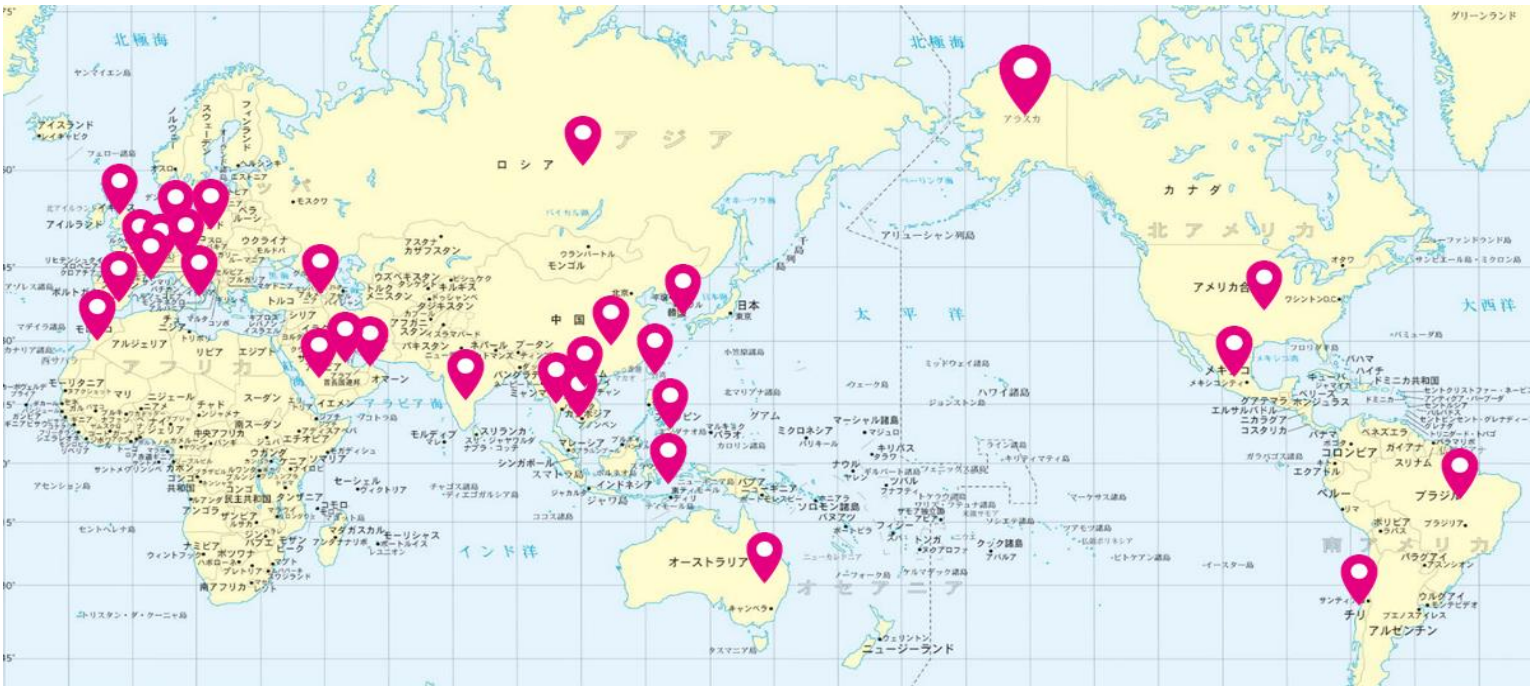
海外での活動

モナコ公国夏の舞踏会(王族主催)、世界女性起業家協会(FCEM)世界大会、
IWFCI(国際女性連盟)、世界女性CEOサミット、フィリピン・ストリートチルドレンの学校 他多数



世界35か国と地域を訪問

アメリカ(ニューヨーク、ハワイ、ワシントン、ヒューストン、サンフランシスコ、アラスカ、ロサンゼルス、ポートランド、マウイ島、サイパン、グアムなど)、メキシコ(ロス・カボス)、イタリア(ローマ、ミラノ、ナポリ、フィレンツェ)、フランス(パリ、ニース、サン・トロペ)、イギリス、ドイツ(ミュンヘン)、スペイン(マドリッド、バルセロナ)、スイス、バチカン市国、ポーランド、オーストリア(ウィーン、ザルツブルク)、モナコ公国、オランダ(アムステルダム)、ベルギー(ブリュッセル)、ロシア(モスクワ、サンクト・ペテルブルグ)、オーストラリア(メルボルン)、中華人民共和国(上海、北京)、大韓民国(ソウル、釜山)、台湾、シンガポール、カンボジア、ベトナム、タイ(バンコク、プーケット)、フィリピン(マニラ、セブ島、ボラカイ島)、インドネシア(バリ島、フローレス島)、インド(デリー、ウダイプル、アーグラ、ジャイプル、ニューデリー、ムンバイ)、ミャンマー、モロッコ(マラケシュ、フェス、カサブランカ、シャウエン)、ドバイ、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、アルメニア(エレバン)、ブラジル(カンポ・グランデ、サンパウロ)、カタール(ドーハ)、チリ(サンティアゴ) など



ピンクデー制定

ピンクを贈りしあわせを分かち合う記念日「Pink Day®」を制定

世界中で幸せになる人を増やしたいという想いで、ピンクデーを制定致しました。
毎年4月4日は「Pink Day」です。(一般社団法人日本記念日協会認定)



▲ 設立のお祝いメッセージ色紙抜粋。左から、元通産大臣 深谷隆司氏、有楽製菓(株) 代表取締役会長 河合伴治氏、うるまでるび氏、(株)はせがわ 相談役 長谷川裕一氏



■ ピンクパーティー開催

2019年4月4日、第1回目のPink Day®を記念して、ザ・リッツ・カールトン東京にて、ピンクに囲まれたラグジュアリーなパーティーを開催し、100名の皆様にご参加いただきました。

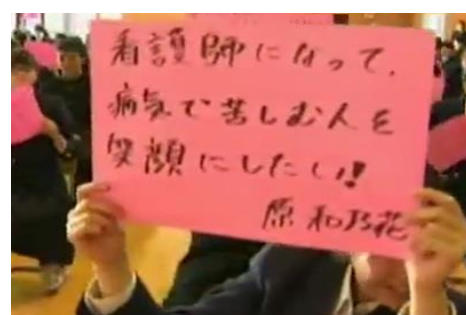
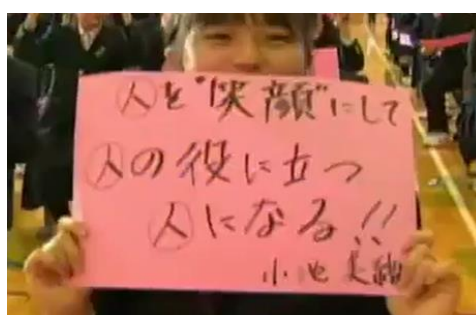
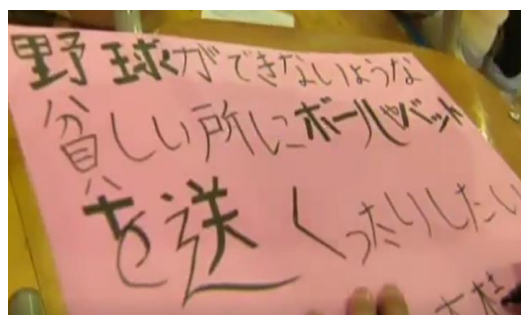


ピースピースプロジェクト サポーター制度

ピースピースプロジェクトは、10代を中心とした子ども達と一緒に世界平和の創り方を学び、青少年の平和を創る力を養う活動を国内外で推進する一般社団法人です。皆様からのご寄付は、下記の活動をはじめ、平和を創る子ども達を育て、子ども達との平和学習を推進するピースピースプロジェクトの活動継続に大切に活用させていただきます。

- 子ども世界平和サミット®など、平和を創る子ども達を育てるイベント開催費
- 子ども達との平和学習に係る、出版・贈呈費用、学校訪問にかかる費用
- 海外、国内での講演、イベントにかかる費用
- 事務局運営費、ホームページ作成・運用費 など

皆様のサポーター登録とあたたかい応援をお待ちしております。



2022年度サポーターご紹介

法人サポーター（敬称略）

株式会社IBJ

医療法人社団秋月会

オーシャンキッズクリニック

株式会社サンギョウサプライ

株式会社エスウィル

株式会社ティーエスピー

Financial Life Support

株式会社ウェイズ

株式会社小原工業

株式会社ナチュラルグリット

深川医療器株式会社

株式会社美健ガイド社

株式会社ココウエルネス

株式会社昭栄美術

株式会社ビジョン

株式会社アイデアテクノロジー

株式会社セルフイノベーションアカデミー

三恵不動産株式会社

株式会社エスロツソ

医療法人百花繚乱

株式会社美光写苑

個人サポーター（敬称略）

比嘉謙介

吉田就彦

田中洋子

坂本成章

堀籠英樹

金子明彦

河口千春

田崎秀和

河合拓志

上田佳苗

森田誠司

丸山隆太

辻田充司

古田島智佳

多田寛子

山下江

堀岡ゆっこ

板橋理恵

富田和雄

安富万里子

宮澤純子

岡部優

前所麻里江

成松波恵

黒木弘美

知花潤

廣瀬正芳

池上久乃

中野豪大

尾山謙二郎

植松瞳

森田真樹

福田和昭

須田早

尾瀬嘉美

佐々木守

高木芳郎

磯貝知美

影山順司

田嶋加代子

佐藤有香

橘凜保

早川和志

永井真人

松岡督明

池内純人

矢部祐加子

齋藤公志郎

瀬谷麻里

福澤祐樹

菅原佳耶

石山勝則

矢島真紀

立川康夫

藤原綾子

加藤美和

会社名、ご氏名を記載させていただいた方々を含め、たくさんの方に応援頂きました。あたたかい応援、ご支援に感謝申し上げます。

ピースサポーター募集

あなたも子ども達の平和学習を応援しませんか？

世界2億5000万人の子ども達が安心して暮らせる地球を創るには、多くの理解者や応援者が必要です。どうか皆様一人ひとりの継続的なご支援、ご寄付をお願い申し上げます。サポーター会員の方には、最新の活動情報、特別なイベント情報などをお届け致します。



法人サポーター 年会費：1口 12万円 (税別・)

法人サポーターは、企業・団体様を対象とした年間賛助会員制度です。法人サポーターにご登録いただきますと、宣伝用のプロモーションパッケージをご使用頂けますので、サポーター会費は広告宣伝費として全額経費になります。(活動実績報告書に御社名記載など) 2021年8月10日には、子ども世界平和サミットの特別席に法人サポーター様をご招待させていただきました。

ご入会方法



下記URLまたはQRコードから、詳細の確認や、お申し込み書をダウンロードいただけます。
<https://peacepieceproject.com/cooperate/company>

法人サポーター様の特典例

- ①ピースピースプロジェクトから法人サポーター様に感謝状贈呈(額入り)
- ②法人Webサイトへのピースピースプロジェクトのロゴ使用の権利(商用使用を除く)
- ③下記表現など、法人Webサイトへの使用の権利
「私たちは世界平和を創る子ども達を育てるピースピースプロジェクトの活動を応援しています」等

個人サポーター 月会費：1口 1,000円から (税込) ※1日あたり33円

子ども達の平和学習を支援するピースピースプロジェクトの活動を、ご寄付で応援サポートいただけます。

ご入会方法



下記URLまたはQRコードから、詳細の確認や、お申し込みいただけます。
<https://peacepieceproject.com/cooperate/join-us>

ご寄付(銀行振込)での応援も受付しております

●お振込み先 【銀行名】ゆうちょ銀行 【店名】一三九(イチサンキュウ)【店番】139
【口座番号】当座 0104239 【口座名義】一般社団法人ピースピースプロジェクト
※活動実績報告書のご郵送をご希望の場合、事務局まで氏名、ご住所、電話番号をお知らせ下さいませ。
【ピースピースプロジェクト事務局】Mail:info@peacepieceproject.com FAX:082-253-0548



PEACE
PIECE
PROJECT

第3回 子ども世界平和サミット® 3rd Children's World Peace Summit

2022年8月3日(水) 衆議院議員会館 国際会議場にて子ども代表スピーチ

10代の子ども達による 世界を平和にするアイデア、募集。



最新情報は公式HPをチェック！
peacepieceproject.com/cwps

応募期間

2022年4月18日～5月31日

応募条件

2022年8月3日時点で **10～19歳の方**

募集作品

「平和ってなに？わたしが考える世界を平和にするアイデア動画」
あなたの思う「平和」とは何ですか？世界を平和にするための、
あなたのアイデアを3分以内のスピーチ動画で教えてください。

応募方法

学校から応募 または 公式ホームページから応募

優秀作品を応募下さった方の中から、10名の子ども代表を選考します。
子ども代表の方には、衆議院議員会館にて、ご応募いただいた作品をスピーチ頂きます。

一般社団法人ピースピースプロジェクト (英語表記 Peace Piece Project)

広島県広島市南区出汐1-17-25

[Mail] info@peacepieceproject.com [公式HP] <https://peacepieceproject.com/>

[Tel] 082-253-0693 ※平日 8:00～17:00

平和を創る子ども達を育て、子ども達が安心して暮らせる地球を創る

